



Newspaper in Education

NIE ニュース

エヌ・アイ・イー

第99号
2022.2.15

●特集・主権者教育で期待されるNIE▶1~3 ●第12回「いっしょに読もう！新聞コンクール」受賞者決定▶4~5 ●新聞の「今」——京都観光の光と影を伝える▶6 ●アドバイザー紹介／フラッシュニュース▶7 ●〈NIEでいきいき〉〈NIEあれこれ〉▶8

©2022年 日本新聞協会

編集・発行 一般社団法人日本新聞協会 TEL: 03-3591-4410 (NIE担当) FAX: 03-3592-6577 e-mail: nie@pressnet.or.jp
〒100-8543 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル [\[https://nie.jp\]](https://nie.jp) [\[https://www.facebook.com/Nie47\]](https://www.facebook.com/Nie47)

特集

主権者教育で期待されるNIE

18歳選挙権の適用から5年。今春には成年年齢が18歳に引き下げとなり、社会参画意識を養う主権者教育の重要性が高まっている。小中高の校種別に実践報告を寄せていただくとともに、NIEの果たす役割を探った。

2022年4月に成年年齢が18歳以上となる。これに先立ち、選挙年齢については16年に18歳選挙権が施行された。同年の参院選に備えて、全国の高校では

前年から第2、3学年を対象に緊急的に「政治や選挙等に関する指導」に取り組むこととなった。その後の学習指導要領の改訂にあたっては、主権者教育の充実が改訂のポイントの一つとして重要視されている。

主権者教育の内容としては、立法や行政、選挙の仕組みといった政治に関する基本的な知識を、単に児童・生徒に理解させるだけでなく、次のような資

質・能力を身に付けさせることがより本質的である。

① 課題に対して多面的・多角的に考察し、公正に判断・解決していく力

② 課題の解決に向けて、他者と対話・議論しながら協働的に追究し、合意形成を行う力（折り合いをつける力）

③ 社会の問題を自分事として捉え、主体的に考え判断し、行動する力（社会参画力）

体系的、教科横断的に

教科書だけでは、最新の政治情勢を授業に反映させることはできない。そのため、さまざまなメディア（SNS含む）を通じて発信される政治に関する膨大な情報の中から必要なものを取捨選択したり、妥当性や信頼性を踏まえて公正に判断して解

釈したりする学びが大切である。

とりわけ昨今では学校でも電子端末が普及し、日常的に多くの情報に直接触れることができるようになった。このため、発達段階に応じてメディアリテラシーを身に付けさせることが肝要である。この点、情報の発信元が明確で信頼性のある記事が掲載される新聞は、極めて有効な教材といえる。

主権者教育というと、高校の公民科で実施されるものとの印象が強いが、新学習指導要領では小学校から体系的にかつ教科横断的に実施していくように組み込まれている。例えば、国語で論理的に考える力や伝え合う力を養い高めたり、総合的な学習（探究）の時間で課題を発見・解決したりする取り組みなどは、主権者教育の目指すところと一致する。

賛否の議論も複数紙で

賛否が分かれる事柄、特に政

治的対立のある問題を取り上げることには慎重な教員もいる。これには「政治的教養を育む教育」と呼ばれていた時代から、教育現場には政治的中立の確保が強く求められてきたことが強く影響している。

しかし、問題に触れないことが「中立」ではない。複数紙の記事を比較・検討・分析することで、同じ事柄でも見る角度を変えたと違った見方ができるとが分かる。これを体験的に感じ取りながら、児童・生徒が多角的・多面的なものの見方を身に付けていくことこそ、まさに「主体的・対話的で深い学び」であると同時に、政治的中立の要請にも応えるものだ。

このような経験は、インターネットなどのメディアに存在する出所不明の膨大な情報に、児童・生徒がどう対処すべきかを考えるときにも生かせる。また、記事だけでなく、政治の最前線で取材にあたる記者の生の声に触れることのできる出前授業など、新聞（社）はまさに主権者教育の教材の宝庫といえるのである。

選挙制度の理解に記事活用



東京学芸大学附属
小金井小学校 教諭
小池 翔太

2021年10月、小学5年生35人を対象とした「特別の教科道徳」において、メディアリテラシーを題材とした主権者教育を実践した。選挙制度に関する解説記事を活用することで、児童が主体的に議論することができた。

「なぜここまで総裁選が話題となっているのかわかりません。小池先生は興味がありますか？」——これは、私が担任をしている、ある5年児童の日記の一部だ。

現代は、動画共有サイトで各政党が広告を配信する時代だ。児童にとって、政治は身近な話題となっているのかもしれない。

そこで私は、選挙が社会参画

につながることを、5年児童にも指導したいと考えた。ただ、政治を学習として扱うのは、6年社会科である。教材には、相応な工夫が必要だと考えた。

まず私が着目したのが、NHKの学校向けサービス「NHK for School」の番組『メディアタイムズ』である。番組の第16回では、選挙PRを取り上げ、その是非が活発に議論できるよう工夫されている。これを中心に授業を組み立てることで、5年児童でも無理なく学べると考えた。

選挙PRの是非を議論

次に着目したのが、選挙制度が解説された新聞記事である。番組の視聴後、選挙PRの是非を児童が建設的に議論するには、選挙制度の概要を理解することが必須と考えた。そこで、記事中の図解を拡大提示装置で紹介することにした。

授業は1人1台端末を活用し、



選挙制度について新聞記事をもとに説明

道徳科の内容項目C(14)「勤労、公共の精神」として行った。

新聞は利用価値の高い教材



東京学芸大学
園部高等部
中等部 社会科 教諭
大畑 方人

2021年10月31日、第49回衆議院議員総選挙の投票率が実施された。主な争点は新型コロナウイルス対策や経済政策などで、9年近くにわたって国政を担った安倍・菅内政権と、発足間もない岸田政権の評価が問われた。投票率は55・93%で、17年の前回

衆院選を2ポイントほど上回ったものの、戦後3番目に低かった。今回の選挙に合わせて、中3の社会の授業で模擬選挙を行った。ここでは、その際に使用した新聞活用教材を紹介する。一つは、公示日(10月19日)の各紙の社説である。なかでも毎日新聞の社説は、「衆院選きょう公示 投票こそが政治を変えろ」との見出しで、「投票しても変わらない」「どっちもどつ

すもんね」と返信した。まとめでは「情報の受け手は、選挙PRをマイナスに考えすぎない」という意見も挙がった。本実践で活用した解説記事は、児童にとって難解と考えられた選挙制度の理解の大きな助けとなった。主権者教育推進には、正確に理解できる時事的な新聞記事を、いかに教師が見つけて活用できるかが鍵になると感じた。

「いいことだけを伝えるニュースは参考にするか・しないか」という問いに対し、自分の立場を投票させ、理由も投稿させた。ある反対派の児童は「いいことだけを言っていて、もし投票してしまってもそこで悪いことが出てきてしまったらショック」と投稿。それに対して、ある賛成派の児童は「確かに『環境を守ります』と言われて、そのあとに税金を重くされたらいやで

見出し穴埋めで主張つかむ

もう一つは、同じく公示日の読売新聞10月19日付夕刊「9党首の第一声」の記事である(写真)。一部抜粋・レイアウト変更。これも社説と同様に、見出しを

特集 主権者教育で期待される NIE

伏せた上で読ませ、記事の中から必要な情報を見つけ出す作業を行わせた。同じ記事を読ませるにしても、見出しを考えさせるというワークを取り入れることで、「成長の果実の分配」（岸田・自民党総裁）、「一億総中流」（枝野・立憲民主党代表）、「10万円給付」（山口・公明党代表）、「野党共闘」（志位・共産党委員長）など、各党首が最も主張したいことを的確につかませることができた。

ポトマッチ・サイト活用

授業では、これらの新聞教材等を活用して選挙の概要や争点を理解させた上で、ICTを活

見出しを空欄にした新聞記事

用して各党の政策をより詳しく調べさせ、比較・検討させた。また、模擬投票に際しては、毎日新聞の「えらぼーと」、朝日新聞の「あなたにマッチする政党は？」などのポトマッチ・サイトを紹介し、生徒自身の考えに近い政党はどこなのかを知

新聞通じ、参画意識を高める



千葉県立国府台
高等学校 教諭
大塚 功祐

私の授業は生徒の声がきつかけで広がっていくことがある。沖縄県の普天間飛行場問題では、生徒が「現地の高校生の考えを聞いてみたい」という声から一人一人手紙をしたため、現地と手紙交流をしている。

今回報告する実践も、生徒の「国会議員に意見を伝えたい」という声があきつかけで、国会議員に質問し、回答をもらう取り組みができた。昨年の衆院選に

るための参考にさせた。

このように、実際の選挙を題材とした模擬選挙を実施する際に、新聞は非常に利用価値の高い教材である。ここでは一例しか紹介できなかったが、各校において参考にしていただければ幸いである。

向けた授業を紹介する。

議員に質問書を送付

まず、6月に各グループで国政における関心のあるテーマをあげる。「コロナ対策」「安全保障」「景気対策」など様々であった。グループの中でそれら政策の優先順位を議論すると面白い。今はやはり圧倒的に「コロナ対策」が最も関心の高い事項だった。政策に関連する記事や

政策ごとに政党の考えを比較できる記事を提示すると議論がより深まる。さらに、マインドマップのような用紙を使うのも有効だ。それらをもとにグループ

ごとに国会議員への質問書をまとめた。

今回の質問書は「政策における高校生の優先順位はどのくらいか」「学校のトイレの三つに二つは和式トイレで困っている」「高校生一人に一台ずつタブレットがほしい」など教育環境の整備に関する高校生の視点での質問がみられた。また、「公約はいいことばかり書かれている。国民に我慢してもらいたいことは何なのか」「コロナ対策と日本の未来像」「ヤングケアラー問題の対策」などを質問として送付した。

各党の国会議員からは、それぞれの質問にZoomで回答してもらった。この回答をまとめ、政策意見交換会と題した授業で、生徒たちは視聴し、模擬投票をした。

投票までのプロセスが大切

過去10年、全ての国政選挙で模擬投票を行い、昨年の衆院選で7回目の実施となった。いずれも自由投票ではあるが、投票率は学校によって異なるものの

7〜9割と生徒の関心は高い。しかし、「模擬投票＝主権者教育」ではなく、模擬投票はあくまで生徒の意思表示の場にすぎない。それよりも主権者教育で大切なのは模擬投票に至るまでに様々な社会の課題に対して、生徒たちが考え、議論し、将来をイメージし、行動することだと思う。「勉強は受験のため」「勉強は社会に出てあまり役に立たない」という高校生の声を耳にするのは本校でも例外ではない。社会とのつながりを感じ、参画意識を高める新聞の役割は絶大である。

「自分が政治について考えていないのに、政府が自分たちに寄り添ってくれる訳がないとあらためて感じた。必ず選挙に行きます」「自分たちの未来にながっていると知ることができた」「今日お話ししてくれた約束が実現されているかこれから見守ろうと思った」。取り組みも生徒の感想である。抽象的でない政治を通して、自分事として捉えさせる取り組みをこれからも続けていきたい。

第12回

いっしょに読もう！新聞

コンクール
受賞者決定

第12回「いっしょに読もう！新聞コンクール」の受賞者が決まった。表彰式は今回もコロナ禍により横浜市のニュースパーク（日本新聞博物館）での開催が見送られ、各地のNIE推進協議会を通じての贈賞となった。
審査委員長の小原友行氏（日本NIE学会顧問、福山大学教授）にコンクールの講評をいただいた。

よりよい未来へNIEに期待

はじめに、個人賞としての最優秀賞、優秀賞、奨励賞、学校賞としての優秀学校賞、学校奨励賞を受賞された皆さんに、審

査会を代表して心よりお祝いを述べたい。

また、コロナ禍が長期化する中、12回目のコンクールが実施

小学生部門最優秀賞 佐藤 せり花さん
(北区立王子第二小学校5年・東京都)



左から佐藤さん、東京都 NIE 推進協議会の西牧豊実会長

選んだ記事：「思いやりの言葉 しおりに コロナ禍、地域へエール」（岩手日報2021年5月29日付朝刊）
佐藤さんのコメント：すごくうれしい。選んだ記事は文章から記者の優しい人柄が伝わってきた。これからも地域の出来事や歴史を記事にしてほしい。

できただけでなく、個人賞、学校賞共に、大幅な応募数の増加が見られたことに対して、関係者各位のご苦勞に深く感謝申し上げます。

三つの特色

コンクールの特色を示すキーワードとして、昨年度は、「コロナ禍にもかかわらず」「深い学びを引き出す」「葛藤やジレンマを克服するために」の三つを挙げた。本年度は、「コロナ禍だからこそ」「多様性を考える」「希望のストーリー」の三つを指摘しておきたい。

第一の「コロナ禍だからこそ」とは、長期化するコロナ禍だからこそ、深く考えるための学習材として、正確な情報源である新聞のニュースが、これまで以上に求められているということである。コロナ禍前に編集された教科書ではなく、最新の「今」を学ぶ教材として新聞が

中学生部門最優秀賞 尾崎 柚果さん
(盛岡市立見前中学校2年・岩手県)



右から尾崎さん、岩手県 NIE 協議会の菅野亨副会長

選んだ記事：「誰もやらないことならやれる」（朝日新聞2021年7月20日付朝刊）
尾崎さんのコメント：作品を通じて誰かが考えるきっかけになればうれしい。自分の意見に責任が持てるよう、これからも考え続けたい。

必要とされたということではないであろうか。大幅な応募者増加の背景には、指導された先生方の熱い思いと同時に、教材としての価値を持つ新聞の意義というものを強く感じた。

第二の「多様性を考える」とは、本年度が東京オリンピック・パラリンピックの開催年度であったこともあるのか、受賞作の多くが、多様性を強く意識したものであったことである。「ジェンダー」「障害者」「夫婦別姓」「インクルーシブ」「育休」「依存症」など、多様性に

関する葛藤や対立、ジレンマを取り上げた記事に対して、深く考えた作品が多く見られた。

そして第三の「希望のストーリー」とは、小中高各部門の最優秀賞・優秀賞に、記事の中から共感する希望の物語を見つけるだけでなく、それを実践に結びつけようとするものが多い見られたことである。「思いやりの言葉しおりに」「誰もやらないことならやれる」「ミャンマー弾圧」「留学生に食糧支援」「お母さん食堂」など、現代社会が直面する正解のない問



題や課題に真摯に向き合い、近未来への希望の物語を発信しようとする作品である。このことは、よりよい未来の創造に向けた「もう一つのNIE」の始まりと呼べるものかもしれない。

本年度も最終審査会はオンラインで行われた。オンライン型の良さは、全国各地の審査員が参加しやすく、多様な意見を聞けるといふことにあるのかもしれない。

しかし、審査会の休憩時間や終了後に聞ける井戸端会議のような雑談の中の成長した子どもたちのエピソードや、その後にある指導者の温かい空気を感ずることは難しい。また、審査委員長の最大の喜びは、表彰式での記者と対談する輝いた子どもたちの姿に出会えることであるが、それも2年間実現して

来年度こそは対面で

今年度は47都道府県から計6万4513編（小学生5580編、中学生2万9036編、高校・高等専門学校生2万9897編）の応募があった。

1次、2次、最終審査会を経て、小中高校各部門の最優秀賞を1編ずつ、優秀賞を校種別に各10編、奨励賞を計120編選

高校生部門最優秀賞 中田 結子さん
(白百合学園高等学校3年・東京都)

選んだ記事：「ミャンマー弾圧 とらわれた経験証言」
(朝日新聞2021年8月6日付朝刊)
※表彰は学校で3月に行われる予定

来年度こそは、アフターコロナとして、対面型審査会や表彰式が戻って来ることを、強く期待したい。

優秀学校賞受賞校 (15校)

岩手県	軽米町立晴山小学校
埼玉県	鴻巣市立常光小学校
東京都	北区立東十条小学校
岐阜県	瑞浪市立陶小学校
長崎県	聖マリア学院小学校
秋田県	横手市立横手明峰中学校
東京都	山脇学園中学校高等学校
福井県	越前市南越中学校
和歌山県	和歌山県立日高高等学校附属中学校
福岡県	福岡教育大学附属小倉中学校
埼玉県	埼玉県立川越女子高等学校
神奈川県	鎌倉女学院高等学校
福岡県	福岡県立小倉南高等学校
熊本県	熊本県立大津高等学校
大分県	大分県立杵築高等学校

優秀学校賞（代表校）
越前市南越中学校・福井県

福井県 NIE 推進協議会から
優秀学校賞の賞状を受け取る小林英則校長

小林校長のコメント：情報がどんどん入ってくる時代。生徒には、情報を受けるだけでなく、その情報を基に自分の考えを持つ人になってほしいと呼び掛けている。NIEはこれからの時代に大切な力を養える。

んだ。また、団体応募は505校あり、優秀学校賞に小中高校各5校の計15校を選んだほか、学校奨励賞197校を決めた。

第5回NIE教育フォーラムの参加者募集!

新聞協会は、第5回NIE教育フォーラム「主権者教育のこれからとNIEの可能性」を2月26日(土)午後1時30分からオンライン開催します。参加無料。4月の成年年齢引き下げを前に注目の集まる主権者教育の今後と、小中高校の授業に取り入れる際のポイントなどについて議論します。

新聞協会NIEウェブサイト (<https://nie.jp>) 同フォーラムページから申し込む。締め切りは2月24日(木)。パネリストは鈴木謙介氏(関西学院大准教授)、藤井剛氏(明大特任教授)、元日本新聞協会NIEアドバイザー、小泉の花氏(VOICE代表/中大法学部1年)、司会者 関口修司(新聞協会NIEコーディネーター)。

第13回コンクール募集!

新聞協会は第13回「いっしょに読もう!新聞コンクール」の募集を始めました。対象は小中高校(高専)生です。2021年9月8日から22年9月6日までの新聞から興味を持った記事を選び、家族や友達と話し合い、気付いた意見を応募用紙に記入して送りください。締め切りは9月7日(必着)です。

応募要領はNIEウェブサイト (<https://nie.jp/monthlycontest/newspaper/2022/>) をご覧ください。

新聞の「今」

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、厳しい状況にある観光業。感染再拡大と地域経済のはざまで実態をどのように捉え、何に留意して報じているかを新聞社に寄稿いただいた。

京都観光の光と影を伝える



京都新聞社 報道部 田中 俊太郎

日本を代表する観光都市・京都。歴史ある神社仏閣や町家が至る所にあり、情緒あふれる街並みが国内外の人々を引きつける。京都観光の話題は注目度が高く、インターネットのニュースや雑誌では、ホテルの開業情報や人気の飲食店などが連日紹介されている。

京都観光に関する情報があふれる中、地元紙の役割は何か。それは新型コロナウイルス禍で過渡期にある京都の光と影を、しっかりと伝えていくことだと思っている。

私が京都の観光取材するよ

うになったのは2021年春。

感染拡大「第4波」の真つただ中だった。学生時代から数えて20年ほど京都に暮らしているが、コロナ禍で街は大きく変わった。大きなスーツケースを引いて歩く海外からの観光客や、あてやかな着物姿でそぞろ歩く若者、修学旅行生、団体客の姿はほとんど見なくなった。京都はホテルや旅館、飲食店など観光業に携わる人が多い。それだけにコロナの影響は大きく、観光と市民生活の密接な関係を目の当たりにした。

奮闘する事業者の思いを

これまで、コロナ禍を何とか生き抜こうとする観光事業者を取材し、さまざまな取り組みを紹介してきた。例えば、京都市

内でホテルを運営する企業が始めたワクチンの職域接種の話題。社員や取引先だけでなく、競合する他のホテルや旅館にまで対象を広げたことが特徴で、「観光客に安心して京都に来てもらうには業界が一丸となる必要がある」という担当者の思いを伝えた。

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が度々発令され、落胆する宿泊業者や飲食店の関係者の声など明るい話題ばかりではなかったが、奮闘している事業者の姿や思いを伝えることで彼らの励みになれば、と記事を書いてきた。

京都市内はひと頃に比べて人



多くの観光客でにぎわう清水寺周辺=2021年11月 (京都新聞社提供)

出が戻ってはいるが、観光事業者の苦境は続いている。ホテルや旅館の客室稼働率は昨年秋季の紅葉シーズンに一時的に回復したものの、コロナ禍以前の水準には及ばない。飲食店もコロナ禍の長期化に伴う人々のライフスタイルの変化もあり、思うように客足は戻っていない。国の観光支援策「Go To トラベル」再開への期待は高まっているが、新たな変異株で先が見通せない。

持続可能な観光に注目

感染対策と経済をどう両立させるのか。それは京都に限らず、観光業界が抱える課題だろう。そんな中、京都で注目を集めているのが「サステナブルツーリズム」だ。旅先の地域文化や環境保全を優先し、持続可能な観光を目指す考えだ。

背景には、コロナ禍前に問題となっていたオーバーツーリズム(観光公害)への反省がある。コロナ禍前は海外からの観光客が大幅に増えたことで、私有地への立ち入りやごみの放置、ひ

どい交通混雑などが問題となり、市民生活に影響が出た。現在は観光客の激減でそうした問題は解消されているが、同じ轍を踏まないように、官民を挙げてサステナブルツーリズムが進められている。

京都では20年秋に「京都観光行動基準(京都観光モラル)」が策定された。観光事業者・従事者、観光客、市民の3者が、互いに気遣い合う観光の理想を掲げ、持続可能な観光に向けてそれぞれ大切にしてほしい考えを示している。例えば、修学旅行にもエコバッグを持参するなど、京都を訪れる児童や生徒にも実行できる取り組みがある。

アメリカの旅行雑誌の調査では、世界の魅力的な都市として京都が毎年上位に入り、その期待の表れか市内には今も新しいホテルが次々とオープンしている。コロナ収束後は再び国内外から多くの観光客が訪れることは間違いない。京都の街がこれからどう変わるのか。今後そのリアルな姿を伝え続けていきたいと思っている。

NIEアドバイザー紹介

- ①学校名(所属等) ②担当教科
- ③NIE実践歴
- ④新聞を活用するうえでの工夫を一言(敬称略)



●神奈川県
白井 淑子
(うすい・すみこ)

①神奈川県NIE推進協議会事務局 ②国語 ③35年
④新聞が子どもたちの身近にあるように環境を整え、自らの視点で記事を読むように働きかけ、記事を話題に交流して考えを深める。



●神奈川県
木南 景子
(きなみ・けいこ)

①神奈川県立高浜高等学校 ②国語 ③10年
④ウェブ上のニュースから新聞へ展開するなど、生徒にとって身近なものと新聞をつなげることを意識して新聞を取り入れている。



●神奈川県
田中 牧子
(たなか・まきこ)

①元藤沢市立大庭中学校 ②理科 ③20年
④今まで考えたことがないようなテーマや、当たり前のように疑問を呈するテーマを取り上げ、みんなが意見を言える場をつくることを心がける。



●福岡県
柴田 康弘
(しばた・やすひろ)

①福岡教育大学附属小倉中学校 ②社会 ③20年
④社会のリアルを報じる新聞は、「リアルな社会」をつくり出す教室を社会に開く扉である。子どもが「ガチ」になる学びを。



●福岡県
山口 猛虎
(やまぐち・たけとら)

①福岡市立春吉小学校 ②社会科 ③9年
④新聞を活用することは「社会と対話する」ことであり、「深い学び」を実現する教材の中核として位置付けることが重要である。

NIE フラッシュニュース

◇第27回全国大会宮崎のスローガン決定

宮崎市で開催する第27回NIE全国大会のスローガンが「いまを開き 未来を拓くNIE」に決定した。宮崎大会は2022年8月4日に宮崎市民文化ホールで、5日に宮崎公立大学で実施する。小中高校・特別支援学校計6校による公開授業・実践報告のほか、ノーベル化学賞受賞者の吉野彰氏による記念講演やパネルディスカッションを行う。

第28回NIE全国大会は、「ICTでひらくNIE新時代」をスローガンに、23年8月3、4の両日に松山市で開く。

◇第6次学校図書館図書整備等5か年計画、新聞配備の予算を計40億円増額

文部科学省は1月24日、2022年度からの第6次学校図書館図書整備等5か年計画を策定し、公立小中高校等の学校図書

館で図書の整備、司書の配置とともに、複数の新聞を読める環境を整備するよう都道府県教育委員会に通知した。目安の部数を各学校で21年度までの第5次計画より1紙ずつ増やし、小学校2紙、中学校3紙、高校5紙とした。国は配備費用として、5年間の合計で前計画から40億円増額した190億円の地方財政措置を講じる。

新学習指導要領では、新聞を教材として活用することが位置づけられ、文科省は学校図書館の配備を推進している。

選挙権年齢や成年年齢の引き下げ等に伴い、児童生徒が主権者として必要な資質・能力を身につける上で、発達段階に応じた複数紙の配備が必要であるとしている。

文部科学省が21年7月に公表した20年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果

第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」(2022~26年度)の地方財政措置
上段：単年度の額(第5次計画比)
下段：5か年総額

新聞配備	38億円(8億円増)※1 190億円
図書整備	199億円(21億円減) 995億円
学校司書配置	243億円(23億円増)※2 1215億円
計	480億円(10億円増) 2400億円

※1 1校あたり小学校は2紙分、中学校3紙分、高校は5紙分を配備可能な額
※2 小中学校1.3校に学校司書を1人配置可能な額

によると、20年3月時点で、学校図書館に新聞を配備している学校の割合は、小学校が49.4%(前回調査では41.1%)、16年3月現在)、中学校46.6%(同37.7%)、高校94.3%(同91.0%)。今回初調査した普通教室を含む新聞配備は小学校56.9%、中学校56.8%、高校95.1%と、小中学校で半数を超えた。学校図書館または普通教室に配備している紙数の平均は、小学校1.6紙、中学校2.7紙、高校3.5紙。



本校では「軽度知的障害のあ

る生徒に対する思考力・判断力・表現力の向上に向けた新聞の活用」をテーマに、2年間NIEの実践を行った。NIEを身近に感じるきっかけとなったのは、新聞社によるNIE出前授業。5W1Hをおさえた記事の読み取り方や構成について学習し、見出しの文字数など、新聞づくりの重要なポイントを確認できた。

朝のショートホームルーム(SHR)では、記事や4コマ漫画から情報を収集・要約し、自分の意見をまとめた。また、

事務局長から一言

県立水戸高等特別支援学校は2019年度から2年間、NIE実践指定校の認定を受けて、社会的に自立できる生徒の育成

新学習指導要領を踏まえた学習計画、授業づくりに新聞活用を織り込み、学習を積み重ねた。数学科では、新聞に記載され

ている「主な国・地域での新型コロナウイルスの感染状況」を活用した。各国の感染者数を読み取り、概数化したり、数を比

茨城県立水戸高等特別支援学校

教諭 鉄 丈士

◎茨城県水戸市／校長・村山 亮／生徒数・144人
◎特色・社会的・職業的自立を目指す人材育成のため、1999年に開校した高等部単独の特別支援学校。産業科として、4系統8コースに分かれた専門教科を学習し「働き続ける力」の育成に取り組み。オンラインでの取り組みを推進し、「いつしよに読もう！新聞コンクール」にて2020年から2年連続で優秀学校賞を受賞(特別支援学校としては全国初)。



記事中の表から数値や人数の変化などを読み取る生徒



茨城県のエネルギー事情について記事やスライドを見て確認する様子

に大きな成果を上げた。

特別支援学校が指定校に名乗りを挙げるのは、茨城県では初のケース。軽度の知的障害で、就労を目指す生徒が通う学校の特性もあったが、何より、校長

はじめ教職員が一丸となって知恵を出し合い、「生活の一部に新聞がある」環境づくりに情熱を注ぐ姿が印象的だった。

授業はもちろん、読み終えた新聞はアート作品にも使う。驚

較したり、増減数を分析したりすることで、感染の地域差や拡大状況などについて思考し、表現する機会となった。

理科の電気の特徴をまとめる学習では、現在使われている発電の種類や方法について、新聞記事から情報を得て学びを深めた。身近なケースである県内の発電やエネルギー事情を見て、生徒一人一人が自分の意見ももち、グループ内や全体発表で自信をもって取り組めた。

これらの実践が新聞への関心を高め、新聞コンクールへの全生徒の応募につながった。20年度の生徒アンケートでは「新聞を読む機会が増え、新聞を読むことが得意になった」との回答が43%に上った。NIEが、主体的・対話的で深い学びの一助となることを実感できた。

いたのは、生き生き活動する生徒を見て、寄宿舎でも独自に複数紙を購読、指導員が入浴後にNIEタイムまで設けてしまっただことだ。(茨城県NIE推進協議会事務局長・澤畑和宏)



コロナ禍の春、「カリキュラムをこなすだけで精一杯、NIEまで手が回らない」と、ベランダが初めてNIEに取り組み実践指定校の担当教師から連絡が入った。しかし、新聞社の出前授業を使うことで、充実した足跡を残せた◆実践の手掛かりが見つかれば、目を見張る成果が生まれる。そこに、改めて課題を痛感した。NIEの効果が見つかれば、充実した情報もあふれている。記者が学校に招かれて話をするだけで、子どもの反響は大きい。新聞を面白がってくれる。それでも、新聞活用は大変だという教師の思いは強い◆実践の手掛かりは、どこにあるか。教員養成大学や新しい研修制度にも期待したいが、まずは新聞を手にとることからしか始まらない。新聞を手にとる。道に人から人へ手掛かりを伝える。その積み重ねこそ、学びにつながっていくと信じている。

(岐阜新聞社・内木いづみ)